



～訓子府町まちづくり推進会議条例に基づく～

第7回まちづくり推進会議

令和3年
12月29日発行

日 時：令和3年11月18日（木）19:00～20:45 場 所：公民館講堂
出席者：委員19名 事務局4名

協議事項

◆地域公共交通について

町の地域交通の現状について説明し、今後の持続可能な地域交通について考えるためにWG（ワーキンググループ）を実施し、各グループで集まった意見を説明員が発表しました。

○ディスカッション内容に伴う主な意見等

A グループ：高齢者の地域交通について

○交通利用目的について

- ・高齢者バス支援制度は通院に使用している。北見市内での買い物にバスを利用することもあるが、不便を感じる。
- ・町内にスーパーができてからは、町内で買い物をすることが増えた。

○公共交通利用で困っていることについて

- ・普段、運転してくれる人が運転できなくなってからの生活に不安がある。
- ・一時期、車がなくなったときは公共交通機関がないと生きていくことすら困難に感じた。
- ・町内会に住んでいるが、免許がなくても特に苦勞はしていない。
- ・自宅に食材等を届けてくれる便利な配達サービスもあるが、定期的買い物に外出した方が生活習慣的には良いと感じる。

○交通の利便性向上のために何が必要か

- ・自宅から病院まで直通で行けたら良いと思う。

○町の交通施策についてどう感じるか

- ・高齢者ハイヤー・バス券を利用して指定の区間内の移動に自己負担300円かかるが、往復で600円となり、生活の負担になっているという声がある。
- ・ハイヤーなら相乗りすれば一人当たりの負担は減るので、工夫して利用している人もいる。
- ・スクールバスは空席が多いため無駄に走らせるのはもったいないと感じる。
- ・スクールバスを巡回バスとして利用できないか。
- ・ドアトゥドアで利用できる高齢者ハイヤー制度がある以上、コミュニティバスのような制度は町にそぐわないのではないかと感じる。
- ・スクールバスが便利になりすぎると公共交通機関の収益に影響を与えてしまうのではないかと感じる。過去にふるさと銀河線の利用者が減ったこともある。
- ・町の財政的にも交通手段の確保や公共交通の維持に負担が増えているとのことだが、今後も未来への投資と考えると、計画的に現状の公共交通を維持してほしい。

○免許返納についてどう思うか

- ・免許返納については、老人クラブでも勧めてはいない。可能な限り車に乗り続けることを進めているが、高齢者が事故を起こしたニュースを見ると、運転が不安になる。



B グループ:「通学・通勤者等の地域交通について」

○スクールバスについて

- スクールバスが満員でないのなら、園児や小学校低学年に 2.5km（距離制限）を歩かせるのは大変ではないか。年齢を考慮してスクールバスの対象範囲を拡充すべき。
- 範囲を拡充すると、対象人数が増えることで最初に乗る子は特に長時間バスに乗車することになり、疲れてしまうデメリットもある。
- 送迎の順番が固定されていて、いつも最後の方になる子がいるので逆順もやってみては。
- 子ども会行事でスクールバスが順番で利用できるが、ほかの子ども会が利用しないなど、空きがあれば連絡をくれるか、リアルタイムで確認できるようになれば良いと思う。

○路線バスについて

- バス停から遠いところに住んでいるとバス停までの移動が大変に感じる。
- 子どもだけで公共交通機関に乗って出かけることが昔に比べて少ないと感じる。
- ふるさと銀河線があった頃は、各駅停車の際にトイレに行けたが、バスだと途中でトイレに行けないので、高齢になると長距離の移動に不安を感じる。
- 高齢になっても元気なうちは自家用車に乗り、自家用車に乗れなくなる頃には身体的に歩くのも大変になるので、結局バスには乗らないのではないか。

まちづくり推進会議の資料は、役場庁舎(正面玄関横)および図書館に設置しています
「まちづくり情報コーナー」で閲覧ができます。

